

アフガンの現実

長谷部 貴俊

①



はせべ・たかとし 1973年
福島県生まれ。日本国際ボランティアセンター事務局長。論文に「カブール戦争と記憶」「泥沼化するアフガン」など。

米・政府への反感高まる 武力での治安困難 肌身に

「我々の将来は暗い」。今年2月にアフガンニスタンの方
ブルで、NGOで働く人た
ちと話し合いをしていた時、
アフガンニスタン人の男性が語
った言葉です。これは現在の
アフガンニスタンの市民の多く
が持っている気持ちだと思
います。

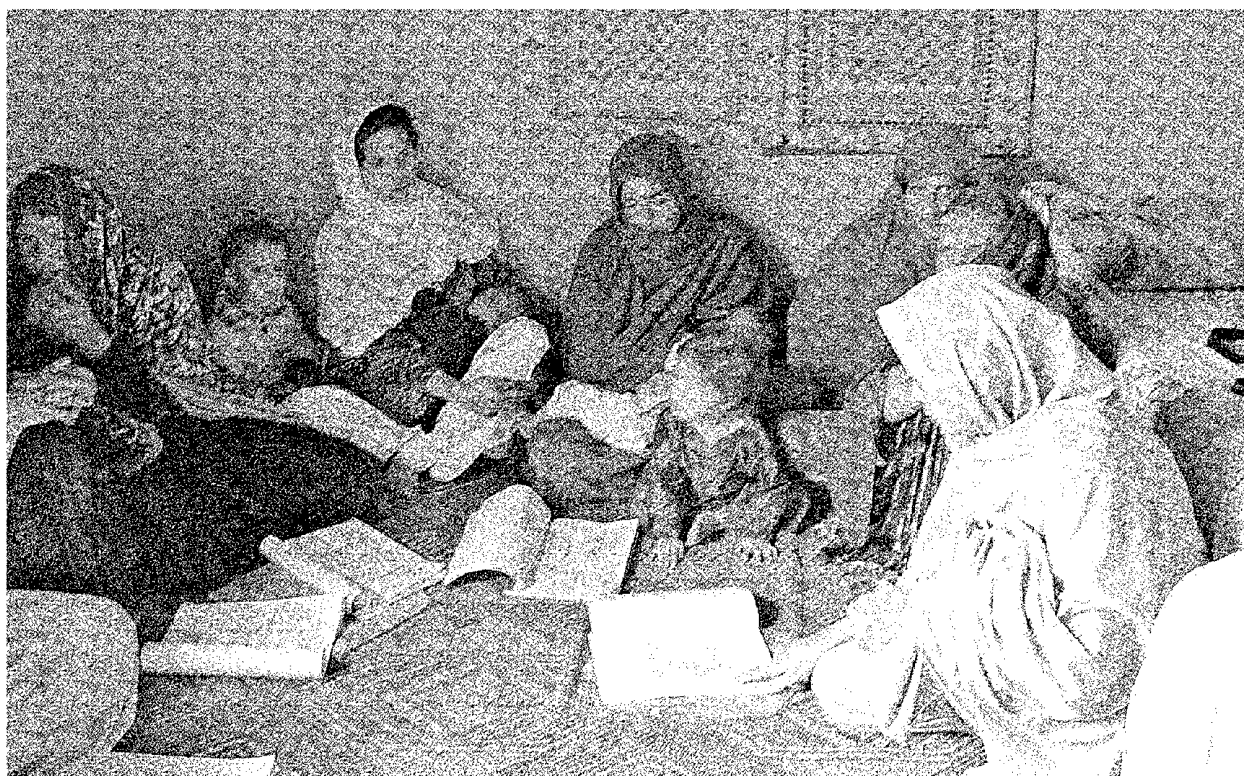
多くの子どもたちが教育を
受けられるようになったこ
と、地方でも診療所が運営を
開始したこともあり、一定の
成果も見られますが、まず社
会が安全でないこと、アフガ
ニスタン政府が非常に腐敗し
ているため、タリバン政権時
代のほうが良かったという人
すらいます。

◇ ◇
2001年に起こった同時
多発テロの主犯とされたウサ
マ・ビンラディン容疑者をか
くまったとして、同年10月に
米英によるアフガンニスタン攻
撃が開始されました。私たち

日本国際ボランティアセンタ
ー(JVC)は、そのアフガ
ニスタン攻撃開始から同国内

ます。JVCは支援と同時に
この対テロ戦争を現場からの
視点で一貫して批判してきま
した。「暴力での解決方法
何ももたらさない」と。
実際、治安権限移譲プロセ
スの一環として11年7月から
米軍は撤退開始し、14年まで
の移譲終了が合意されていま
すが、治安回復の道のりは遠
く、国連統計によると過去5

年間で1万人以上の民間人が
戦闘の巻き添えで死亡してい
ます。実際はもっと多いだろ
うといわれています。
JVCが活動するアフガニ
スタン東部においては、過去
数年で地域社会でのタリバン
のプレゼンスが増しており、
タリバンを支持する住民は多
く、戦闘での問題解決は不可
能なレベルに達しています



村の民家で行う母親教室。医療活動のほかJVCの活動は多岐にわたる(JVC提供)

し、東部のヌーリスタン県な
どでは、ほとんどカルサイ政
権の影響は及んでいない状況
です。

私はこれまで定期的にアフガニスタンに入ってきました。初めてアフガニスタンに滞在した05年は、私自身紛争地を訪れるのは初めてだったこともあり、正直生きて帰れるかと不安になりました。その後、15回ほど訪問していますが、治安はますます悪化しタリバンをはじめ反政府による外国軍やアフガニスタン国軍への攻撃が激しさを増し、治安状況の悪さを肌で感じています。異常なことが当たり前になりつつある状況です。

◇ ◇
01、02年ごろには外国軍にそれほど反感を持っていないかった一般の人々が、今では米軍、NATOに対していい感情を持っていません。ジャララバード市内に住む一般のアフガニスタン人でさえ、「9・11直後は米国が何かしてくれと期待していた。しかし今は米軍に反感を持っている。自分たちのアフガニスタン政府は外国軍の言いなりだ」と嘆いています。

このような感情を抱く背景には米軍、NATOが作戦だと称して一般市民の犠牲を多く出したのに加え、不当な家宅捜索が後を絶たないから立ちが市民に広がっていることがあります。

ら、外国軍が急に自宅を襲い、反政府活動に参加したこともない友人や、普通に学校に通っていた10代の少年たちを殺しながら、謝罪もないという話を聞きました。

JVCのアフガニスタン人スタッフが、私に「かつて難民としてパキスタンに出て、今はやっとアフガニスタンに戻ったが、将来の見えないところからまた出て、パキスタンに戻りたい」と話した時、はっとしました。そんな気持ちでアフガニスタンに暮らして

いるんだ、と。

これらの地域で行われている「対テロ戦争」を私たちは容認してしまっているのみか、自衛隊の派遣によって加担してしまいました。忘れてはいけません。今のアフガニスタンが

.....
在沖米軍とも深い関わりがあるアフガニスタン。掃討戦、外国軍駐留のその地で何が起きているのか、記す。

これまで数人の知り合いが